

第7次総合振興計画へのパブリックコメント及び回答について

ご意見	回答
<p>壬生町新図書館の希望について 老朽化のため、新図書館の整備を希望します。 エレベーター設置等のバリアフリー化やくつろげるスペース・赤ちゃんスペース等の改善、飲食スペース・飲食店等を設置し、町民が一日中滞在しやすい図書館を検討してほしいです。 例として、真岡市のmonacaや大田原市のとことこ、那須塩原市のみるる、茂木町のふみの森もてぎなど、住民が集いやすい、複合施設としての図書館を希望します。 また現在の場所では、駐車場から図書館までが遠く、本の持ち運びが大変、雨の日の利用しにくさがあります。 市民ホールや公園内でのイベントがない限り、城址公園は利用者が少ないことが多く、公共施設の機能が弱いのではないのでしょうか。 また、町のやや南にあることから、安塚、おもちゃのまち、国谷付近からの住民や学生が利用がしにくいと思われます。 よって、町の人口の重心点や最寄駅からの近さから、壬生町役場付近への移転し、新図書館の建設を望みます。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 図書館には住民の憩いの場としての機能も備える必要があるため、ご意見にあるように町民の皆様にとって心理的にも物理的にもアクセスしやすい施設であることは重要なことと考えております。今回の振興計画では、具体的に新図書館の建設について言及はしておりませんが、他市町の成功事例を参考に、公民館における「まちかど文庫」や移動図書館等の充実も踏まえながらより魅力的で利便性の高い図書館のあり方について調査研究を進めてまいります。</p>
<p>壬生町の人の流れを呼び込む施策として、まずは町民が右往左往できる足がしっかり出来ているか？考察してほしい。 ここには、公共交通で絶対きてほしい。という意気込みがほしい。 役場職員が使いたくない公共交通は、町民は絶対使いつらいはず。職員には人気の公共交通なのに、町民はどうしてそっぽ向くんだらうと悩むくらいにしてほしい。 みぶまるの予約システムを上三川のかみたん号のようにWeb完結にしてもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 公共交通につきましては、町としても大きな課題ととらえており、今後より一層その重要性が増すものと考えていることから、本計画においても推進すべき施策として記載をしているところです。 現在、町内にはデマンドタクシー「みぶまる」、広域路線バス「ゆうがおバス」、町内循環型のコミュニティバス「みぶーぶ」が運行しておりますが、ご意見にありますように利便性の向上が課題となっています。町民の皆様にとって使いやすく、日常的な足として利用いただけるよう、これらの既存の交通システムにおいて利便性の改善や相互連携の強化も図ってまいります。 また、利便性の向上には、DXの活用も有効であることから、予約や運行状況の確認を含めDXの活用を検討してまいります。</p>
<p>蘭学通りを、活気ある歴史ある、壬生町が誇れる、昔を蘇らせて欲しい。おもちゃの町ばかり活気があり、発展することはとても喜ばしいことです。しかし、そこばかり重心を置くのではなく、おもちゃの街は繁華街だとすると、蘭学通りは、歴史ある、古民家的な、和をテーマとする場所にしていきたい。 また、子育て支援に対して、もっと力を入れていただきたい。物価高騰、電気代値上げ、ガソリン値上げ、共働きをしても、苦しいのが現状だと、思います。なんとか、色々取り組める事があれば、お願いしたいです。また、発達の子に対してのチームワークが全くできていません。何故、学校と役場が連携し合わないのか、不思議でなりません。苦しんで悩む親がたくさんいます。どこにどう相談したら良いのか。そこから自分の子はどうやって周りと生活していけば良いのか、不安な親がたくさんいるはずです。もっともっとオープンにしていきたい。 壬生町を担っていくのは、あくまでも、若い人たちの、意見であり、今の子供達です。土台をしっかりしていただきたいです。よろしく願い致します。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 蘭学通りについては、本計画内の土地利用構想における「緑と文化の都市ゾーン」の中で、歴史と伝統を象徴する地区として位置付けています。町が持つ歴史と文化を後世に伝えながら、その価値を活用することで地域の活性化に寄与することができるものと考えております。まもなくオープンを迎える旧庁舎跡地「ふらっと壬生テラス」では、まちなか創生の拠点として、地域の方が集い、賑わいが創出される施設となるよう整備を進めてまいります。 続いて、子育て支援についてですが、物価高騰等による家計の負担増といった経済的な問題も含め、重点的に取り組むべき課題として本計画にも記載しているところです。また、発達に不安を持つお子さんへのサポートの充実等、学校における課題も多様化していることから、相談窓口の整備や、学校、役場、福祉機関、専門家等関係各所との連携を深め、親子それぞれへの支援体制を強化する必要があると考えています。 最後に、若い世代や子どもたちがこれからの壬生町の担い手であるという点については、町としても同様の考えを持っています。若い世代や子どもたちが希望を持てる魅力的なまちとなるよう今後も各種施策を推進してまいります。</p>
<p>『4-C おいしい壬生の水を安定供給するまちづくり・4-C-2 水道の普及促進』について 壬生水道ビジョンには2017年の水道普及率は93.6%となっております。 また前期基本計画（案）では、令和6年度98.74%（現状地）、令和12年度には目標値99.0%の普及率としております。 <意見> ◆2017年度の普及率93.6%から令和6年度には98.74%と約5.1%普及率が上がっていますがどの地域が普及したのか 数値だけではよく分からないため具体的に見えるように示して欲しいと思います。 また令和12年度目標値99%についても普及予定地域（0.26%の地域）を具体的に示して頂きたいと思います。以上、よろしく願い致します。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 2017年度以降に配水管を布設した主な地域は七ツ石・安塚・羽生田・藤井・上稲葉・北小林とったいわゆる市街化調整区域として指定されるエリアの一部です。今後の配水管布設予定地域は北小林・中泉を予定しておりますが、今後の未普及地域からの要望等により整備エリアを検討してまいります。また、令和12年度水道普及率99%という目標値は、人口をベースに算出したものとなりますのでここで補足させていただきます。 本計画は全分野の計画を体系的に記載する都合上、具体的な事業進捗を詳細に記載することが難しく、こちらでの回答にとどまってしまうますが、適宜町民の皆様へ配水管の普及状況等必要な情報をお示しするよう努めてまいります。</p>